

2020 年度 公立大学法人北九州市立大学 学長業績評価 評価結果

優れた業績である

(評価段階) 特筆すべき顕著な業績である ・ 優れた業績である ・ 良好な業績である
不十分な業績である ・ 業務全般に重大な改善事項がある

総 評

- 新型コロナウイルス感染症対策等の不測の事態が発生する中でも、リーダーシップを発揮し、第3期中期計画を着実に推進している。大学ランキングにおいても上位で安定しており、「行きたい、行かせたい大学」に成長してきていることを実感でき、4年の任期の後半期においても、優れた業績を上げてきたものと大いに評価できる。この成果として、2019年度の法人評価において各分野とも全てA評価となるなど、高い評価に結びついている。新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度以降の中期計画の実行が不透明となる中、新型コロナウイルス感染症への対応やその終息後の大学の在り方について、学長としての構想、決断、リーダーシップ等が求められており、一層の指導力発揮を期待したい。
- **教育分野**について、内部質保証のための体制・システムの構築や、将来構想の検討などを進め、さらに、国際交流・社会人教育プログラム・SDGsなど多岐に渡って実行している点は評価できる。
- その一方で、体制整備後の具体的取組事項の抽出・検討・推進においては、大学院の定員充足や今後の課題となっている分野への対応など検討未了の部分もあり、実行力発揮が望まれる。
- **研究分野**では、学内の競争資金の選考において、大学として取り組むべき「アクティブラーニング」、「SDGs」、「IR」など明確なテーマを具体的に示したことは評価したい。
- 研究環境支援においては、財源的な制約がある中で、海外学会での発表の機会などへの研究支援や海外研修支援の制度見直しも含め、研究費削減の影響を極力小さくするよう、積極的に取り組んできている。
- **社会貢献分野**について、国際交流の着実な推進とともに、SDGsの取組みを始めとして、マスコミを通じ北九州市立大学の学生、教員の地域活動の取組みを目にする機会が多くあり、十分に社会貢献の役割を果たしている。今後は、SDGsを通じた地域、企業、行政への関わりへの拡大につき、具体的な計画策定を期待したい。
- **管理運営分野**について、将来構想を検討するため、「大学戦略会議」および若手教職員を中心とした「将来構想検討会」を設置し、次世代を担う幹部教職員候補の育成にも力を入れてきていることは評価できる。今後、整備した体制からの実質的なアウトプットに期待したい。
- 一方で、適正な財務運営の視点に立った諸施策の戦略的な検討・推進も必要である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響など、多くの変動要因があり、かじ取りは難しいと考えるが、高い視点からビジョンを示し、学内組織をまとめ、学生の満足度向上を図るなど、北九州市立大学の魅力向上に努めてもらいたい。